

第2回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会 会議録

日時：令和2年10月13日(火)19:00～20:25

場所：多治見市立笠原小学校 会議室

【出席者】

委員：水野(豊)委員、水野(仁)委員、玉置委員、河口委員、仲谷委員、渡邊委員、森本委員、稲葉委員、鈴木委員、中嶋委員

事務局：教育長、副教育長、教育次長

教育推進課 東山、山田、田中、横山

教育総務課 河地、長谷部、高田、大嶋

【欠席者】

委員：なし

(要点筆記)

開会	
会長	・第2回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を開会します。
教育長挨拶	
教育長	・夜分お忙しいところお集まりいただき、心よりお礼申し上げます。学校では今週から後期に入り、教育委員会でも笠原の保育園、小中学校を訪問しました。そこで子ども達の元気な姿と学校の新型コロナウイルス対策や熱中症予防を見て、学習の保障がされていたため安心しました。前は小中一貫教育校の種類と義務教育学校のメリットとデメリットについて検討しました。今回は幼保小中一貫教育をどのように進めていくのか、また義務教育学校をいかに有効に発揮できるのかについて皆様からご意見をいただきたいと考えております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。
次第1 前回のおさらい	
会長	・次第1「前回のおさらい」の、 1-1.「小中一貫教育校の3類型」 1-2.「義務教育学校とは」 1-3.「メリットとデメリット」について事務局に説明を求めます。
事務局	(配布資料により説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。 (意見・質問なし)
次第2 笠原校区として考えてみる(1)	
会長	・次第2「笠原校区として考えてみる」に移ります。 2-1.「一般的なデメリットは笠原校区においても同様であるのか」について事務局に説明を求めます。
事務局	(配布資料により説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・子ども達は幼稚園、保育園からずっとクラスメイトであるためクラス替

	えをしても人間関係は長期固定化しています。3つのデメリットは全て当てはまると思います。
委員	・人間関係の長期固定化というデメリットについては、現在でも同様の状況であるため、人間関係はある意味すでに長期固定化されています。デメリットではありますが、義務教育学校導入によるデメリットにはならないかと思います。
委員	・最上級生としての自覚損失はデメリットとしてあると思いますが、学年区切りのグループとしての取り扱いを工夫することができるとありました。特定の集団内の最上級生として位置付けることで、自覚損失を防ぐことは可能だと思いました。
委員	・登下校や学童保育の様子から子ども達は柔軟に対応する力を持っていると感じています。例えば、子どもが4年生で集団活動する時に、6年生がいる場合は甘えた態度になりますし、5・6年生がいなければリーダーとして振舞う姿を何度も見えています。
委員	・多くの子どもは自覚を持った行動を実行できているので、今までと異なる学年区切りであっても対応できると思います。
委員	・学年の区切り方や学校活動を工夫することで、今の学年に関係なく責任感を持つ子どもへと育ていけるのではと思いました。
次第2 笠原校区として考えてみる（2～3）	
会長	・続いて次第2の、 2-2.「18年目を迎える笠原校区幼保小中一貫教育推進協議会での活動成果」 2-3.「英語、道徳、読書といったこれまで培った笠原の財産」について事務局に説明を求めます。
事務局	（配布資料により説明）
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・英語や読書といった取り組みは確実に子ども達の力になっていると感じます。コロナ禍で図書室の利用制限が多く設けられていますが、運用を工夫することで子ども達が本を手にする機会が確保されています。
委員	・アンケートの結果でも本を読むことが子ども達の宝物になっており、その姿勢は保護者からも認められているので今後も大事にしたいです。また、笠原出身の大学生に笠原での学びの意義を聞いたところ、英語は今もさまざまな場面で活用できているとのことでした。これらの取り組みはひとつの手段で、「心豊かな笠原の子を育てる」という目的のため実践しています。
委員	・英語教育ひとつとっても、親も子も笠原の学校ではこれが当たり前だととらえているので普段あまり気にすることはありません。こういう場で話を聞くことで、笠原の特色ある取り組みを認識します。
委員	・他の校区の保護者からは、笠原は幼少期から英語を教えてもらえるので

委員	羨ましいという声があります。6年生の修学旅行では自分から外国人に声を掛けることができている、笠原での学びが子ども達の自信となっています。 ・英語のテストですごく優秀な点が取れるというようなことは私の周りではまだ聞けていないところですが、コミュニケーション能力や外国人に対して物おじしない姿勢は特に秀でていると感じます。
事務局	・幼保小中一貫教育での幼稚園と保育園について、他の校区に対する笠原ならではの特色といったものについては如何でしょうか。
委員	・毎週月曜日に英語の先生（ALT）が園に来てくれるため、月曜日の登園が楽しみだと言っています。あいさつもできるし幼少期から自然に英語について興味関心を持つことができます。
次第2 笠原校区として考えてみる（4～6）	
会長	・続いて次第2の、 2-4.「今目指している子ども像、教師像、学校像とその未来」 2-5.「郷土愛や変化への想いに対する尊重」 2-6.「子ども、保護者、地域、学校、行政での連携と協働」について事務局に説明を求めます。
事務局	(配布資料により説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・笠原小学校では「心の宝物が見つかる学校」を目指しています。心の宝物とは子ども達の自己肯定感です。特別足が速いわけではない、勉強がすごく出来るわけではない、でも先生の話真剣に聞いたりプリントは必ず両手で受け取ったりする小さな良い点を教師が見つけ、子ども同士が褒め合う関係を作りたいと考えています。その小さなことが子どもの支えとなり心の宝物が見つかって輝いていく。そんな子を育てるために教師は3つのことを意識しています。まず、子どもをよく見てその子の長所をもっと伸ばしてあげる。次に、小さな出来事でも保護者へ丁寧に説明し信頼を積み重ねていく。最後に、子どもへの言動に対して覚悟を持つことで、子どもの先生に対する見方も変わると考えています。
委員	・どの校区でも同じかもしれませんが、笠原校区は笠原校区での独特な部分があると聞いたことがあります。でもそれが好きだという人がたくさんいて、その場限りではなく未来を見据えて連携を取っている点がとてもいいなあと思いました。
委員	・笠原の学校を中心にPTAや青少年まちづくり市民会議、NPOなどが連携しており、新しい事業も進めやすく一体感があるよい地域だと感じています。
委員	・昔あった子どもへの意識調査で、地域への関心が低い結果だったことがありました。郷土愛を育むためにも地域行事に力を入れて活動していますが、学校と地域の連携ができてきているなあと感じているところです。義

委員	義務教育学校となっても大事にしていきたい部分です。 ・学年区切りの設定はとても大事なことで、よく考えて決めていく必要があると感じます。子どもの意見を聞いていくこともできるのではないかと思います。
次第3 笠原校区における義務教育学校の有効性について	
会長	・次第3「笠原校区における義務教育学校の有効性について」事務局に説明を求めます。
事務局	(配布資料により説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・義務教育学校となっても笠原校区では現状と大きく変わることはないような気がします。それが有効性だと言えるのではないのでしょうか。
委員	・性別、学年関係なく交流できることが笠原の魅力であり、義務教育学校は自然な流れだとも感じます。
委員	・現在とすごく大きく変わってしまう、どうしようどうしよう、といったことになるとは思えないため、義務教育学校に対する抵抗は今のところありません。
委員	・学校だけでなく地域や各種団体との連携も強く安心感があるため、義務教育学校について大きな不安や抵抗は感じていないところです。
委員	・義務教育学校での学校生活に対する不安はありませんが、学校の場所が変わることについては不安を感じます。今も一人で下校することが多いこともあり、通学路が変更となった場合は心配です。
委員	・義務教育学校のデメリットで心配になることはなく、楽しみの方が強いです。子どもの数が減少してくると登下校の安全性にも関わるので、設置場所等の詳細が気になります。
委員	・義務教育学校そのものよりも、子どものお迎えや引き取りがどうなるのかということが気になってしまいます。学校も園も保護者もお互いスムーズに動ける仕組みができるといいなあと思います。
委員	・義務教育学校で一貫教育を行うことはいいことですが、1年生から9年生までだと登下校などでは今より年齢差が大きくなります。特に下校時においては学校の終わる時間もそれぞれバラバラで差があると思いますので、学年をいくつかに分ける学年区切りの設定はとても重要だと思います。
次第4 笠原の未来の学校を項目ごとに考えてみる（1～2）	
会長	・次第4「笠原の未来の学校を項目ごとに考えてみる」に移ります。 4-1.「学年区切りについて」 4-2.「多彩で内容の深い授業について」事務局に説明を求めます。
事務局	(配布資料により説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・義務教育学校の学年区切りは、その地域の特色を生かしてそれぞれが決

委員	めているという説明でしたが、その地域がこういった理由でその学年区切りとしたのか、理由や根拠を知りたいです。それが笠原校区で決める際の大きな判断材料となるのではないのでしょうか。 ・すでに義務教育学校となっている学校での学年区切りについて、実際のメリットやデメリットを知りたいと思いました。
事務局	・今後の研究会での課題とさせていただきます。
委員	・日頃子どもと関わっている中で、4年生と5年生とでの1学年の違いはとても大きいものだと感じています。教科担任制などを取り入れる場合、子どもの成長段階を考えると、4年生と5年生とで区切ることは重要で自然だと思います。
次第4 笠原の未来の学校を項目ごとに考えてみる（3～4）	
会長	・続いて次第4の、 4-3.「異学年交流について」 4-4.「インクルーシブ教育について」事務局に説明を求めます。
事務局	（配布資料により説明）
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・笠原が行ってきた英語教育をより発展させていくためには、異学年の交流で学ぶ機会を増やすことが方法にあると思います。義務教育学校では、今よりも簡単にたくさん実現できるはずですので、子ども達の成長を考えても有意義だと思います。
委員	・学童保育事業は小学6年生までが対象ですが、学校との連携なしではできないものですし、中学生との関わりも生かせるのであれば、新しいメリットも生まれてくると思います。
次第4 笠原の未来の学校を項目ごとに考えてみる（5～6）	
会長	・続いて次第4の、 4-5.「ICTを活用した情報教育について」 4-6.「地域拠点としての学校について」事務局に説明を求めます。
事務局	（配布資料により説明）
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・義務教育学校になると学校としてはひとつ減るため、体育館も含めた避難場所がひとつ減ってしまうのかと心配です。
委員	・今年、コロナ対策を踏まえた避難所開設を考えるとというものがありましたが、現在の笠原中学校の施設構造では安全な避難所としての提供はできないと実感しました。義務教育学校を設置する際にコロナ等を想定した構造での施設であれば、避難場所の数としては減ってしまうものの、災害対策の有効性としては前進しますので、よいことであると思います。
次第5 コロナ禍をふまえた笠原の未来の学校について考えてみる	
会長	・次第5「コロナ禍をふまえた笠原の未来の学校について考えてみる」について事務局に説明を求めます。

事務局	(配布資料により説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・これまでも関連した意見はいくつか出ていましたが、コロナに対応した手洗い場やトイレ、感染を防げるような避難時の経路確保などは十分考慮していく必要があると思います。
委員	・教室の規格といったものがあるとは思いますが、ソーシャルディスタンスが確保できる教室やワークルームなど、今より少し大きめの設計が必要になってくるのかと思います。

次第 6 その他

会長	・次第 6 「学校長より」について一言お願いします。
委員	・現場では、実際に校舎が出来上がった後に、広さや使い勝手などが気になってくるものであるため、先程のコロナ防止を意識した教室づくりをはじめ、多くの方からご意見をいただけて嬉しく思います。近隣にはまだ設置されていない新しい学校を作ろうとしているため、皆さんの色々な視点が同じ方向に向かって話を進めていくことができるようになれば、そこで生活する未来の子ども達がより笑顔になるのだと思っています。
会長	・次第 6 「事務連絡」について事務局お願いします。
事務局	・多治見市のホームページ内に小中一貫教育校専用のページを作成済みです。会議資料や会議録を順次掲載していきますが、会議録についてその都度事前に資料を配布しますので、内容等のご確認をお願いします。

次第 7 次回以降の研究会の開催日について

会長	・次第 7 「次回以降の研究会の開催日について」について事務局に説明を求めます。
事務局	(配布資料により説明) 7-1. 第 3 回：11 月 10 日（火）午後 7:00～笠原小学校会議室 7-2. 第 4 回：日時未定 ※委員を増員しての研究会

質疑応答

会長	・本日の会議全体について、何でも結構ですので、質問や意見はありますか。 (意見・質問なし)
----	--

副教育長挨拶

副教育長	・本日もありがとうございました。皆様のお話を聞きながら義務教育学校の設置検討について、ご理解いただきながら進めていけるということを確認することができたと思っています。今後、事業を進めていく中で研究・検討していくことがまだあることをご意見いただきましたので、先行事例を参考にしながら笠原校区に最も適した形を引き続き検討していくことが重要であると思っています。今後の研究会でご意見をいただきながら、子ども達が楽しく生活しやすい義務教育学校で、かつ地域の誇りとなるよう
------	---

な学校ができるとよいと思いますので、今後ともよろしく願ひいたします。

閉会

会長

・以上で、第2回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を閉会します。

—以上—